事業番号 2023 - 文科 - 新24 - 0016

	令和5年度行政事業レビューシート			(文部科学省)					
	人文学・社会科学のDX化に向けた研究開発推進事業			担当部局庁						
事業開始年度		6年度 事	業終了		振興企画課	学				
会計区分	一般会計	(7	定)年度 7 和0年			2	5			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	- NX X 11			関係する計画、通知等	統合イノベーション戦略2023 (令和5年6月9日閣議決定) 第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定)					
政策	8 知のフロン	ンティアを開拓し価値創造	造の源泉となる研究力の強	化						
施策	8-2 基礎研3	究∙学術研究の振興		<u>主要経費</u>		科学技術振興費				
政策体系·評価書URL	_									
現状・課題 (5行程度以内)	デジタル化を 築し、分野に 的・計画的な。 分野では研究 査・分析が必要	良質な学術データの開発・整備やネットワーク化、大量のデータを利用した研究の効率化・加速化や巨視的研究の実施、市民等のデータ利活用促進など、諸外国は人文学研究の デジタル化を積極的に推進している。「デジタル・ヒューマニティーズ」と称するこうした世界的動向への対応や「総合知」の創出に資する観点から、国内の学術機関の協働体制を構 築し、分野に適したデータ規格のモデルガイドラインの開発やAI利活用研究の事例創出、人材育成プログラムの開発など、DX化のための基盤開発が必要となっている。また、総合 的・計画的な人文学・社会科学の振興に向けて、我が国全体の人文学・社会科学の研究動向や研究成果を把握するためのモニタリング手法の確立が喫緊の課題であるところ、同 分野では研究成果の主な発表媒体として、個人の研究成果を体系化した「書籍」が重要な位置を占めており、論文データだけでなく、書籍データを活用した研究動向や成果の調 査・分析が必要となっている。加えて、社会・経済・文化等に中長期的・多面的に生じる人文学・社会科学の多様な社会的インパクトやSNS等を活用した成果発信等に係る指標につ いても検討が必要である。								
	我が国の人文系諸分野の研究DXを推進するため、国内学術機関で構成する「デジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアム」を立ち上げ、協働体制を構築して、同分野の学術資源のデータ化にあたっての規格の調整やモデルガイドラインの策定・データ駆動型研究のユースケースの開発、データ資源(データ化された学術資源)の幅広い利活用促進、人文系諸分野の特性に応じたデータ構築・AI利活用研究等の方法論に通じた人材育成など、データ基盤の開発を推進する。併せて、我が国の人文学・社会科学の研究活動の成果をデータ分析により可視化・発信するための研究開発を実施する。									
事業概要URL	_									
<u>実施方法</u>	委託·請負									
補助率等	_									
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求			
		当初予算(A)	-	-	-	-	239			
		補正予算(B)	-	-	-	-				
						-				
						_				
						_				
	予算の					_				
予算額▪	状況					_				
執行額 (単位:百万円)		 前年度から繰越し(C)	_	_	_	_	_			
(インプット)		翌年度へ繰越し(D)	_		_	_				
		・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		_	_	_				
	_	計(F)			_	_				
		=(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	-	-	239			
		執行額(G)	-	_	-					
		執行率(%) =(G)/(F)	-	-	_					
	当初予算+補正予算に対する執行額 の割合(%)		額	-	-					
		=(G)/ {(A)+(B)} 歳出予算項·目	 令和5年度当初予算							
	(項) 研究振興費				重要政策推進枠239百万円					
	(1	目) 科学技術試験研究委託		238	1					
令和5·6年度	(1	目) 職員旅費		0.6						
予算内訳	(1	目) 委員等旅費		0.5						
(単位:百万円)	(1	目) 諸謝金		0.2						
	(1	目) 庁費		0.1						
		その他		▲ 0	4					
		計(A)	-	239	1					

Ţ									
₩	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見辺
動目標及び活動実績	「データ規格のモデルガイドライン」を策 □ 「データ規格のモデルガイドライン」を策 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		活動実績	領域	-	-	-	——————————————————————————————————————	—————————————————————————————————————
(アウトプット) 	定するとともに、データ駆動型研究の事 例創出を進める	■ ン」の策定とナータ駆動型研究の 事例創出を進める領域数	当初見込み	領域	-	-	-	-	3
成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	本事業により創設するDHコンソーシア 究コミュニティに普及・定着させていく上								
	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最	最終年度 8 年
果目標及び成果実績		「データ規格のモデルガイドラ	成果実績	機関	-	_	-		-
(長期アウトカム)	学術機関が「データ規格のモデルガイドライン」の策定に参画する	イン」の策定に参画する機関数	目標値 達成度	機関	-	-	-		6
果実績及び目標値の 根拠として用いた 計・データ名(出典) E性的なアウトカムに 関する成果実績	実績報告書及び文部科学省調べ	•			•				
		アクティビティ①につい	いて定性的な	アウトカ	ムを設定してし	る理由			
	-								
ウトカム設定について の説明		·	~!. ~ ¬+!	1 1 1814	241 = 11	. Tm			
נייושלט	アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由 本事業は、事業実施期間である3年間をかけて、「データ規格のモデルガイドライン」を策定するとともに、データ駆動型研究の事例を創出することにより研究DX								
	本事業は、事業実施期間である3年間						开究の事例を 倉	削出することに	より研究DX
	推進を図ることを目的としているところ、	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ	ンガイドライン ニティに普及	 ∕」を策定 ・定着して	するとともに、テ こいくためには、	データ駆動型の まずは核とな	る学術機関に	本取組に参画	iしていただ
		をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ 引が「データ規格のモデルガイド・ 取組が完了するところであるため	レガイドライン ニティに普及 ライン」の策! カ、令和8年	/」を策定 ・定着して 定に参画 度におけ	するとともに、う いくためには、 する』を長期的 る長期アウトカ	データ駆動型の まずは核とな なアウトカムと ムは前述のも	る学術機関に こして設定した。 ののみとなる。	本取組に参画。 。本事業では、 。	していただ 事業終了な
活動内容② (アクティビティ)	推進を図ることを目的としているところ、 とが極めて重要であるため、『学術機関 度である令和8年度において、上記の関	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ 引が「データ規格のモデルガイド・ 取組が完了するところであるため	レガイドライン ニティに普及 ライン」の策! カ、令和8年	/」を策定 ・定着して 定に参画 度におけ	するとともに、う いくためには、 する』を長期的 る長期アウトカ	データ駆動型の まずは核とな なアウトカムと ムは前述のも	る学術機関に こして設定した。 ののみとなる。	本取組に参画。 。本事業では、 。	していただ 事業終了 ^な
	推進を図ることを目的としているところ、 とが極めて重要であるため、『学術機関 度である令和8年度において、上記の関 拠点機関が中心となって利活用に向け	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ 引が「データ規格のモデルガイド・ 取組が完了するところであるため	レガイドライン ニティに普及 ライン」の策! カ、令和8年	/」を策定 ・定着して 定に参画 度におけ	するとともに、う いくためには、 する』を長期的 る長期アウトカ	データ駆動型の まずは核とな なアウトカムと ムは前述のも	る学術機関に こして設定した。 ののみとなる。	本取組に参画。本事業では、。 ・ ・ 手引きを作成り	でいただ。事業終了会
動目標及び活動実績	推進を図ることを目的としているところ、とが極めて重要であるため、『学術機関度である令和8年度において、上記の関拠点機関が中心となって利活用に向けジ・SNS等を通じて発信する。 活動目標	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ が「データ規格のモデルガイド・ 取組が完了するところであるため たネットワークを構築し、人文学	レガイドライン ニティに普及 ライン」の策だ か、令和8年 全のデータ資	・」を策定で ・定にを ・定にを ・定にの ・定にの ・定にの ・定にの ・定にの ・定にの ・定にの ・定にの	するとともに、う いくためには、 する』を長期的 る長期アウトカ	データ駆動型の まずは核とな なアウトカムと ムは前述のも	る学術機関に こして設定した。 ののみとなる。	本取組に参画。 。本事業では、 。	でいただ。事業終了会に、ホームへ
(アクティビティ)	推進を図ることを目的としているところ、とが極めて重要であるため、『学術機関度である令和8年度において、上記の関連点機関が中心となって利活用に向けジ・SNS等を通じて発信する。 活動目標 ネットワークに参画した機関・団体等において、人文学のデータ資源の利活用	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ が「データ規格のモデルガイド・ 取組が完了するところであるため たネットワークを構築し、人文学 活動指標 ネットワークに参画し、人文学 のデータ資源の利活用に向け	レガイドラインニティに普及ライン」の策だめ、令和8年からで一タ資	・定度度源の単位関	するとともに、ういくためには、 する』を長期的 る長期アウトカ 所に向けた実	データ駆動型でまずは核とななアウトカムと ムは前述のも 践を行うととも	る学術機関によって設定した。ののみとなる。に、事例集や	本取組に参画。本事業では、 。本事業では、 。 手引きを作成り 手引きを作成り	し、ホーム/ 6年度 活動見i
動目標及び活動実績	推進を図ることを目的としているところ、とが極めて重要であるため、『学術機関度である令和8年度において、上記の関拠点機関が中心となって利活用に向けジ・SNS等を通じて発信する。 活動目標 ネットワークに参画した機関・団体等に	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ が「データ規格のモデルガイド・ 取組が完了するところであるため たネットワークを構築し、人文学 活動指標 ネットワークに参画し、人文学	レガイドラインニティに普及 ライン」の策だ カ、令和8年 全のデータ資	・」を策定で ・定にを ・定にを ・定にの ・定にの ・定にの ・定にの ・定にの ・定にの ・定にの ・定にの	するとともに、ういくためには、 する』を長期的 る長期アウトカ 所に向けた実	データ駆動型でまずは核とななアウトカムと ムは前述のも 践を行うととも	る学術機関に して設定した。 ののみとなる。 に、事例集や 令和4年度	本取組に参画。本事業では、 。本事業では、 。 手引きを作成り 手引きを作成り	し、ホームへ
(アクティビティ) 動目標及び活動実績 ② (アウトプット) 成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット	推進を図ることを目的としているところ、とが極めて重要であるため、『学術機関度である令和8年度において、上記の関連点機関が中心となって利活用に向けジ・SNS等を通じて発信する。 活動目標 ネットワークに参画した機関・団体等において、人文学のデータ資源の利活用	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ が「データ規格のモデルガイド・ 取組が完了するところであるため たネットワークを構築し、人文学 ホットワークに参画し、人文学のデータ資源の利活用に向けて実践を行う機関数	ンガイドラインニティに普及ライン」の象年か、令和8年から、一夕資か、一夕資がある。 活動実績 当初見込み	r c c c c c c c c c	するとともに、 する とともに、 する 』を 長期 的る 長期 アウトカ	データ駆動型でまずは核とななない。 まずけらからととも ないではでいます。 ないでは、 ないでは、 でも現場が参	る学術機関によるののみとなる。ののみとなる。に、事例集や第一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	本取組に参画。本事業では、 本事業では、 「「「「「「「」」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「」 「」 「」	していただ。 事業 ホー
(アクティビティ) 動目標及び活動実績 ② (アウトプット) 成果目標②-1の 設定理由	推進を図ることを目的としているところ、とが極めて重要であるため、『学術機関度である令和8年度において、上記の即拠点機関が中心となって利活用に向けジ・SNS等を通じて発信する。 活動目標 ネットワークに参画した機関・団体等において、人文学のデータ資源の利活用に向けた実践を行う	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ が「データ規格のモデルガイド・ 取組が完了するところであるため たネットワークを構築し、人文学 ホットワークに参画し、人文学のデータ資源の利活用に向けて実践を行う機関数	ンガイドラインニティに普及ライン」の象年か、令和8年から、一夕資か、一夕資がある。 活動実績 当初見込み	r c c c c c c c c c	するとともに、 する とともに、 する 』を 長期 的る 長期 アウトカ	データ駆動型でまずは核とななない。 まずけらからととも ないではでいます。 ないでは、 ないでは、 でも現場が参	る学術機関によるののみとなる。ののみとなる。に、事例集や第一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	本取組に参画。本事業では、 「「一」」 「一」」 「一」」 「一」」 「一」」 「一」」 「一」」 「一	iしていただ。 事 ホーム / 6年 活 - 5 和、id id i
動目標及び活動実績 ② (アウトプット) 成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	推進を図ることを目的としているところ、とが極めて重要であるため、『学術機関度である令和8年度において、上記の関拠点機関が中心となって利活用に向けジ・SNS等を通じて発信する。 活動目標 ネットワークに参画した機関・団体等において、人文学のデータ資源の利活用推進に向けた実践を行う 人文学のデータ資源の利活用推進に応手引きが作成されることが重要であるが 成果目標	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ が「データ規格のモデルガイド・ 取組が完了するところであるため たネットワークを構築し、人文学 ホットワークに参画し、人文学のデータ資源の利活用に向けて実践を行う機関数	ンガイドラインニティに普及ライン」の象年か、令和8年から、一夕資か、一夕資がある。 活動実績 当初見込み	r c c c c c c c c c	するとともに、 する とともに、 する 』を 長期 的る 長期 アウトカ	データ駆動型でまずは核とななない。 まずけらからとともない。 はを行うととも 令和3年度 - -	る学術機関によるののみとなる。ののみとなる。に、事例集や第一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	本取組に参画。本事業では、 「「一」」 「一」」 「一」」 「一」」 「一」」 「一」」 「一」」 「一	TL事 に
(アクティビティ) 動目標及び活動実績 (アウトプット) 成果目標②-1の 設定ウトプット からのつながり) 果目標及び成果実績 ②-3	推進を図ることを目的としているところ、とが極めて重要であるため、『学術機関度である令和8年度において、上記の即拠点機関が中心となって利活用に向けジ・SNS等を通じて発信する。 活動目標 ネットワークに参画した機関・団体等において、人文学のデータ資源の利活用推進に向けた実践を行う 人文学のデータ資源の利活用推進に応手引きが作成されることが重要であるが 成果目標 ネットワークに参画した機関・団体等に	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ が「データ規格のモデルガイド・取組が完了するところであるためた。	ボース デース デース デース デース デース デース デース デ	Vize度源	するとともに、だいくためには、する』を長期を長期のから、	データ駆動型ではます。 まアウトがよく ないではいますがある。 令和3年度 一 一 て各源が利活が を済いがある。	る学術機関に というのみとなる。 ののみとなる。 に、事例集や 令和4年度 - - - -	本取組に参画。本事業では、 「「一」」 「一」」 「一」」 「一」」 「一」」 「一」」 「一」」 「一	TL事 し、 6 話 - 5 和 、 6 表 年 た 7 を
	推進を図ることを目的としているところ、とが極めて重要であるため、『学術機関度である令和8年度において、上記の即拠点機関が中心となって利活用に向けジ・SNS等を通じて発信する。 活動目標 ネットワークに参画した機関・団体等において、人文学のデータ資源の利活用推進に向けた実践を行う 人文学のデータ資源の利活用推進に応手引きが作成されることが重要であるが 成果目標	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ が「データ規格のモデルガイド・取組が完了するところであるためた。	ボース ボース ボース ボース ボース ボース ボース ボース	Pub	するとともに、 ういくためには、 する	データ駆動とととも 動とととも まアはおうとととも 令和3年 一 で各源が利利を で名源がある。 一	る学術機関に いのの事例集や に、のの事例集や 令和4年度 一 一 令和4年度 一 一 一 一 一 一	本取組に参は、 を作成に を作成に	il 事 に
(アクティビティ) 動目標及び活動実績 (アウトプット) 成果目標型-1の (アウトプット) 成果目標理由 (アウトカム) 東目標及び成果実績 (長期アウトカム)	推進を図ることを目的としているところ、とが極めて重要であるため、『学術機関度である令和8年度において、上記の野拠点機関が中心となって利活用に向けず・SNS等を通じて発信する。 活動目標 ネットワークに参画した機関・団体等において、人文学のデータ資源の利活用推進に向けた実践を行う 人文学のデータ資源の利活用推進に応手引きが作成されることが重要であるが 成果目標 ネットワークに参画した機関・団体等において人文学のデータ資源が利活用される	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ が「データ規格のモデルガイド・ 収組が完了するところであるため たネットワークを構築し、人文学 たネットワークに参画し、 人文学 のデータ資源の利活用に向けて実践を行う機関数 はまました。 でまるために参画した機関・ でまか、 『ネットワークに参画した機関・ でまから では、 『ネットワークに参画した機関・ でまから では、 『ネットワークに参画した機関・ でまから できない はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいま	ボース デース デース デース デース デース デース デース デ	Vize度源	するとともに、 でいくためには、 する	データ駆動とととも 動とととも 中がはけいがいます。 中がはいますがはいます。 中がはいますがはいます。 中のではいますがはいます。 中のではいますがはいます。 中のではいますがはいます。 中のではいますがはいます。 中のではいますがはいます。 中のではいますがはいます。 中のではいますがはいます。 中のではいますがはいます。 中のではいますがはいます。 中のではいますがはいます。 中のではいますがはいます。 中のではいますがはいます。 中のではいますがはいますがはいます。 中のではいますがはいますがはいます。 中のではいますがはいますがはいます。 中のではいますがはいますがはいますがはいますがはいます。 中のではいますがはいますがはいますがはいますがはいますがはいますがはいますがはいますが	る学術機関に いのの事例集や に、 令和4年度 一 一 一 令和4年度 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	本取組に参は、 を作成に を作成に	L
(アクティビティ) 動目標②のよう (アウトプット) はたいでは、アウトプット) はたいでは、アウトのでは、アウトのでは、アウトのでは、アウトのでは、アウトのでは、アウトカム) はたいでは、アウトカムのでは、アウトカムのでは、アウトカムのでは、アウトカムのでは、アウトカムのでは、アウトカムのでは、アウトカムのでは、アクティビティ)	推進を図ることを目的としているところ、とが極めて重要であるため、『学術機関度である令和8年度において、上記の野拠点機関が中心となって利活用に向けず・SNS等を通じて発信する。 活動目標 ネットワークに参画した機関・団体等において、人文学のデータ資源の利活用推進に向けた実践を行う 人文学のデータ資源の利活用推進に応手引きが作成されることが重要であるが 成果目標 ネットワークに参画した機関・団体等において人文学のデータ資源が利活用される	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ が「データ規格のモデルガイド・ 収組が完了するところであるため たネットワークを構築し、人文学 たネットワークに参画し、 人文学 のデータ資源の利活用に向けて実践を行う機関数 はまました。 でまるために参画した機関・ でまか、 『ネットワークに参画した機関・ でまから では、 『ネットワークに参画した機関・ でまから では、 『ネットワークに参画した機関・ でまから できない はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいま	ボース ボース ボース ボース ボース ボース ボース ボース	Pub	するとともに、 ういくためには、 する	データ駆動とととも 動とととも まアはおうとととも 令和3年 一 で各源が利利を で名源がある。 一	る学術機関に いのの事例集や に、のの事例集や 令和4年度 一 一 令和4年度 一 一 一 一 一 一	本取組に参は、 を作成に を作成に	il 事 に
サート で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	推進を図ることを目的としているところ、とが極めて重要であるため、『学術機関度である令和8年度において、上記の即連点機関が中心となって利活用に向けジ・SNS等を通じて発信する。 活動目標 ネットワークに参画した機関・団体等において、人文学のデータ資源の利活用推進に向けた実践を行う 人文学のデータ資源の利活用推進に応手引きが作成されることが重要であるが 成果目標 ネットワークに参画した機関・団体等において人文学のデータ資源が利活用される	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ が「データ規格のモデルガイド・ 収組が完了するところであるため たネットワークを構築し、人文学 たネットワークに参画し、 人文学 のデータ資源の利活用に向けて実践を行う機関数 はまました。 でまるために参画した機関・ でまか、 『ネットワークに参画した機関・ でまから では、 『ネットワークに参画した機関・ でまから では、 『ネットワークに参画した機関・ でまから できない はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいま	ボーナー は関	Vi定度	するとともに、 でいくためには、 でもしまり では、 でもしまり でもしまり でもしまり でも	データ駆動とよると ・	る学術機関に いのの事例集や に、のの事例集や 令和4年度 一 一 令和4年度 一 一 一 一 一 一	本取組に参は、 を作成に を作成に	il 事 に
サート で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	推進を図ることを目的としているところ、とが極めて重要であるため、『学術機関度である令和8年度において、上記の即連点機関が中心となって利活用に向けジ・SNS等を通じて発信する。 活動目標 ネットワークに参画した機関・団体等において、人文学のデータ資源の利活用推進に向けた実践を行う 人文学のデータ資源の利活用推進に応手引きが作成されることが重要であるが 成果目標 ネットワークに参画した機関・団体等において人文学のデータ資源が利活用される	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ が「データ規格のモデルガイド・ 収組が完了するところであるため	ボーナー は関	Vi定度	するとともに、 でいくためには、 でもしまり では、 でもしまり でもしまり でもしまり でも	データ駆動とよると ・	る学術機関に いのの事例集や に、のの事例集や 令和4年度 一 一 令和4年度 一 一 一 一 一 一	本取組に参は、 を作成に を作成に	il 事 に
(アクティビティ) 動目標②のよう 「アクティビティ) ・	推進を図ることを目的としているところ、とが極めて重要であるため、『学術機関度である令和8年度において、上記の野拠点機関が中心となって利活用に向けジ・SNS等を通じて発信する。 活動目標 ネットワークに参画した機関・団体等において、人文学のデータ資源の利活用に向けた実践を行う 人文学のデータ資源の利活用推進に応手引きが作成されることが重要であるが 成果目標 ネットワークに参画した機関・団体等において人文学のデータ資源が利活用される	をかけて、「データ規格のモデル その成果物が今後研究コミュニ が「データ規格のモデルガイド・ 収組が完了するところであるため	ボーナー は関	Vi定度	するとともに、 でいくためには、 でもしまり では、 でもしまり でもしまり でもしまり でも	データ駆動とよると ・	る学術機関に いのの事例集や に、のの事例集や 令和4年度 一 一 令和4年度 一 一 一 一 一 一	本取組に参は、 を作成に を作成に	il 事 に

	5動内容③ ククティビティ)	人文学の若手研究者や大学院生等を対 テキスト)を開発する。	対象として、人文諸学の特性に原	なじたデータ	/構築やデ	一夕駆動型研	究の方法論に	通じた人材育	成プログラム(カリキュラム・	
	1										
活動目	標及び活動実績	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
	3	「人材育成プログラム」の開発を行う	開発する「人材育成プログラ ム」の数	活動実績 当初見込み	件 件	-	-	-	-	- 1	
→	成果目標③-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	人文学分野の研究DXに向け、開発した 者等が受講する』を長期アウトカムとする		者を着実には	曽やしてい	くことが重要で	であるため、『豚	引発した「人材 [・]	育成プログラム	ム」を若手研究	
		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最	最終年度 8 年度	
	標及び成果実績 │ ③-3 朝アウトカム)	開発した「人材育成プログラム」を若手	開発した「人材育成プログラ	成果実績	人	-	-	-		-	
\ T		研究者等が受講する	ム」を受講した若手研究者等 の人数	目標値 達成度	<u>人</u> %	-	-	-	30		
根拠 統計•÷ /定性的	積及び目標値の ととして用いた データ名(出典) りなアウトカムに 「る成果実績	実績報告書及び文部科学省調べ	I			I					
		アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由									
アウトカ	ム設定について の説明										
	V (V (V)		アクティビティ③につ								
		人文学分野の研究DXの推進に向けては 材を増やしていくことが本事業の全期間 ウトカムとして設定した。									

	・動内容④ クティビティ)	「書籍」を対象として、我が国全体の人ろ	て学・社会科学の研究活動の成	果を可視化	するモニ	タリング手法の	の研究開発を行	ゔ゙ゔ。		
	1									
活動日	標及び活動実績	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	④ 7 ウトプット)	「書籍」を対象として、研究活動の成果 を可視化するモニタリング手法を調査・ 分析する	「書籍」を対象として、モニタリング手法の調査・分析を行う 機関数	活動実績 当初見込み	機関機関	-	-	-	-	2
-	成果目標④-1の 設定理由	「肀ᄷ」, 소 남유니 ~ _ 华샤디の ㅣ ᅩ ㅡ	ᅶᄼᆌᅼᇬ퓨ᆉᅛᆉᆄᅌᄼᄳ	ピナ フナ	I-I+ 7./	カエ <i>ー ケ</i> リン・ゲ	エナの 無木 ノ	\+C+'\#\#\ +-	ポルナー ケル 、	. <i>H</i> = 2 + 1 = 1
1	(マウトプット	「書籍」を対象として、我が国の人文学・することが重要であるため、『「書籍」を対							ふとする。	
		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標	票年度 7 年度
	標及び成果実績 ④-1	「書籍」を対象として、研究活動の成果	「書籍」を対象として開発した、	成果実績	件	-	-	-		-
(短期		「番箱」を対象として、研究活動の成果 を可視化するためのモニタリング手法 を開発する	研究活動の成果を可視化するモニタリグ手法の数	目標値	件	-	-	-		2
		ر بر برار الا	0 = 777 1/20790	達成度	%	-	_	_		_
統計 · 定性的	として用いた データ名(出典) りなアウトカムに 「る成果実績	実績報告書及び文部科学省調べ								
↓	成果目標④-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	最終的には、モニタリング対象として開きめ、『「書籍」を対象に、モニタリング対象	発した指標を活用して、我が国の ととして開発した指標に基づく分	D人文学・社 析結果を、 <i>、</i>	t会科学の 人文学・社	の動向を把握し 社会科学の振興	、その振興施 関施策の検討の	策の検討の参 D参考とする』?	考とすることだ を長期アウトカ	が重要である コムとする。
		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標昻	最終年度 8 年度
果目	標及び成果実績 ④-3	「聿篊」た計会に エーカル・ガ計会し	 モニタリング対象として開発し	成果実績	———— 件	-	-	-		-
(長期	胡アウトカム)	て開発した指標に基づく分析結果を、 人文学・社会科学の振興施策の検討の 参考とする	た指標に基づく分析結果の報告	目標値	件	-	-	-		2
		参考とする	口奴	達成度	%	-	-	-		_
根拠 統計・ 定性的	とこして用いた ニータタ(山曲)	実績報告書及び文部科学省調べ (※なお、我が国の人文学・社会科学の 委員会におけるとりまとめにおいて、「書 的取り扱う予定。)								
		_	アクティビティ④につし	いて定性的な	なアウトカ	ムを設定してい	いる理由			
アウトカ	ム設定について の説明		アクティビティ④につ	いてアウト	カムが複	数設定できない	ハ理由			
		_								

事業に関連する	名称	- 					
事業に関連する KPIが定められて いる閣議決定等	URL	- 					
	該当箇所						
		事業所管部局による点検・改善事業所管部局による点検・改善 					
点検結果		事業の実施に当たっては、公募の際に提案内容の妥当性を確認しながら選定するなど、効 果的な事業の実施に努める。	目標年度における効果測定に関する評価(令和8年度3 、効				
改善の 方向性							
外部有識者点検	対象外						
		行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程。 	及び所見				
		事業目的の達成に向け、効率的な予算執行を図り、費用対効果の向上等に努めること。					
		所見を踏まえた改善点/概算要求における反映	状況				
		公開プロセス・秋の年次公開検証(秋のレビュー)に	らける取りまとめ				
過去に受けた指と対応状況	諸事項 況	上記への対応状況					
		_					
		備考					
-		明本ナフルナのログ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					
 平成23年度		関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成23年度							
平成25年度							
平成26年度							
平成27年度							
平成28年度							
平成29年度							
平成30年度	<u> </u>						
令和元年度							
令和2年度 今和2年度			, , 				
令和3年度							

